

第2回資源管理方針に関する検討会
(マサバ対馬暖流系群・ゴマサバ東シナ海系群)
(令和2年3月2日更新)

1. 日程 令和2年2月20日(木)～21日(金)

2. 場所 福岡市鮮魚市場会館

3. 出席者

水産庁:神谷資源管理部長、江口漁場資源課長、船本漁場資源課補佐、赤塚管理調整課補佐ほか

水研機構:堀井理事、西田中央水研資源研究センター長、大下西海区水産研究所資源海洋部長ほか

ほか漁業者、漁業者団体、研究者、行政官等計 60 名

4. 概要

≪1日目:2月20日(木)≫

水研機構から資料4-1から4-4を用いて資源評価の更新結果と第1回検討会の指摘事項に対する試算結果について説明し、水産庁から資料5を用いて資源評価の補足説明を行ったのち、質疑応答・意見交換を行った。

【主な意見】

- 韓国におけるゴマサバの急激な漁獲増加の背景は。また、中国の漁獲データがないため評価に入れていないとのことだが、漁獲があるのは間違いないので、仮定を入れて計算した方がより現実に近い評価となるのではないか。
- 説明の内容が難しい。漁業者でも理解できるよう、新たな資源評価となることで何が変わるのかを示して欲しい。
- 漁業者が覚悟を持って取り組む必要があることから、過去から取り組んでいた管理方法と比較し、どの程度厳しくなるのかを示して欲しい。
- 親魚量を示す意味は何か。獲り方を変えなければならないのか。、操業の実態上、親魚だけを選別して漁獲することはできない。
- 外国による漁獲を把握するためには管理だけでなく調査においても各国の協調が必要ではないか。
- 魚の獲れ方が最近変わってきており、現場へのヒアリングの重要性が増してきたと感じている。前向きな対応をお願いしたい。
- やはり分かり易い説明とは言えないので、何年後までどれくらい漁獲が減って、何年後にこれくらい増えるといったように分かりやすく説明して欲しい。

《2日目：2月21日（金）》

(1) 水産庁から資料6を用いて漁獲シナリオの検討について説明を行ったのち、質疑応答・意見交換を行った。

【主な意見】

- 総 ABC のうち、日本の配分について、本日示されたのは日本の「物差し」であり、韓国のものとは違うと捉えている。将来的には NPFC のように「物差し」自体を韓国、中国と合わせていくつもりなのか。
- 資源評価では予測できない大量漁獲が発生し、都道府県の上限を超えるおそれが出た場合の対応についてどう考えているのか。
- 東シナ海を主たる漁場としており、特に中国側に産卵場が多いゴマサバの管理がどうなるのか関心を抱いていたが、マサバとゴマサバを一体として管理していくということで安心した。ゴマサバの ABC が低い値であったとしても、サバ類の総量までゴマサバを漁獲することが認められると理解して良いか。
- 新しい管理へ移行していくにあたって、サバ類の場合はある程度資源状況が良好なので移行当初の漁獲が大きく切り下げられることにはならなかったが、資源状況が悪い資源の場合は漁獲の引き下げを巡り厳しい議論が予想される。各業界団体や漁業者が責任をもって発言し、決定する場が必要になると思う。
- 5月の水政審に資源管理基本方針を諮ることについて、サバやスケソ等を新たな資源の導入に向け優先的に検討する魚種とすることは承知していたが、目標の設定は法施行後に速やかに決定するものと認識していた。
- 毎年行われる資源評価の結果に限らず、漁獲シナリオで示された将来の漁獲量は資源の急激な悪化等の特殊な状況を除いて変わらないと理解して良いか。
- 現行水準の運用に関し、漁獲努力量が守られている限り採捕停止は出さないとのことだが、我々漁業者がしっかりと努力量の管理に取り組んでいることを外部に示すためにも「現在の水準を維持する」ではなく具体的な数値を示していく必要があると考える。
- 対象となる魚を採捕する者全てが管理の対象とするのが原則だと思うが、実態としてごく少量の混獲や、小学生による採捕は外すなど適用除外のラインを引かないと管理コストが嵩むだけになると考える。適用除外の考え方も資源管理基本方針等で示して欲しい。
- 韓国が日本が考える配分以上の漁獲をした場合、韓国からの輸入を止めることはできるのか。
- 国の方針として示された以上漁業者としても力をあわせて取り組みたい。また、①関係者とのきめ細やかな意見交換を今後とも実施していくこと、②知事管理についても漁獲量が大きいものについては大臣許可漁業と同じレベルの取組となるよう都道府県とよく調整すること、③中国、韓国に対して資源管理の働きかけを行うこと、④積立ぷらすなどの支援が悪いように見直されないこと、を要請したい。
- 沿岸漁業への柔軟な運用を感謝。今後、TAC 魚種が増えていく中、水産庁の現在の体制では厳しいと思う。将来的に人員を増やしたり、都道府県に役割を分担してもらう必要があるのではないか。新しい資源管理を成功させるため我々も後押ししていきたい。

(2) 最後に、

- ① 水研より示された管理目標の値
- ② 漁獲シナリオ ($\beta = 0.95$) で算出される総 ABC
- ③ 総 ABC に占める日本水域の ABC の比率 (マサバ 70%、ゴマサバ 95%)

- ④ マサバ・ゴマサバの一体管理
- ⑤ ②～④に基づき算出される 2020 年の日本水域の ABC
- ⑥ 今後の進め方（パブリックコメントを実施したのち、本年5月下旬の資源管理分科会への諮問・答申を経て本資源の資源管理の目標と漁獲シナリオを含む資源管理基本方針を決定していくこと、2020 年の TAC の数量も同じスケジュールで決定していくこと）

について、資料を再度説明し、水産庁の考え方に対する確認を求めた。出席者の異論無く、水産庁として上記を進めていく旨発言の上、会議を終了した。